

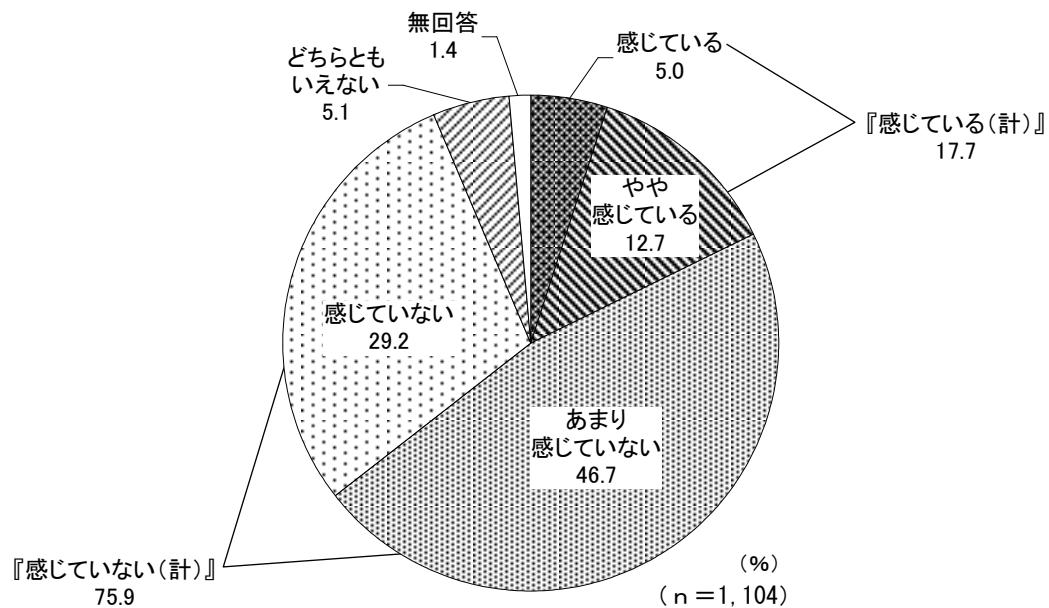
5. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち

(1) 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は2割近く

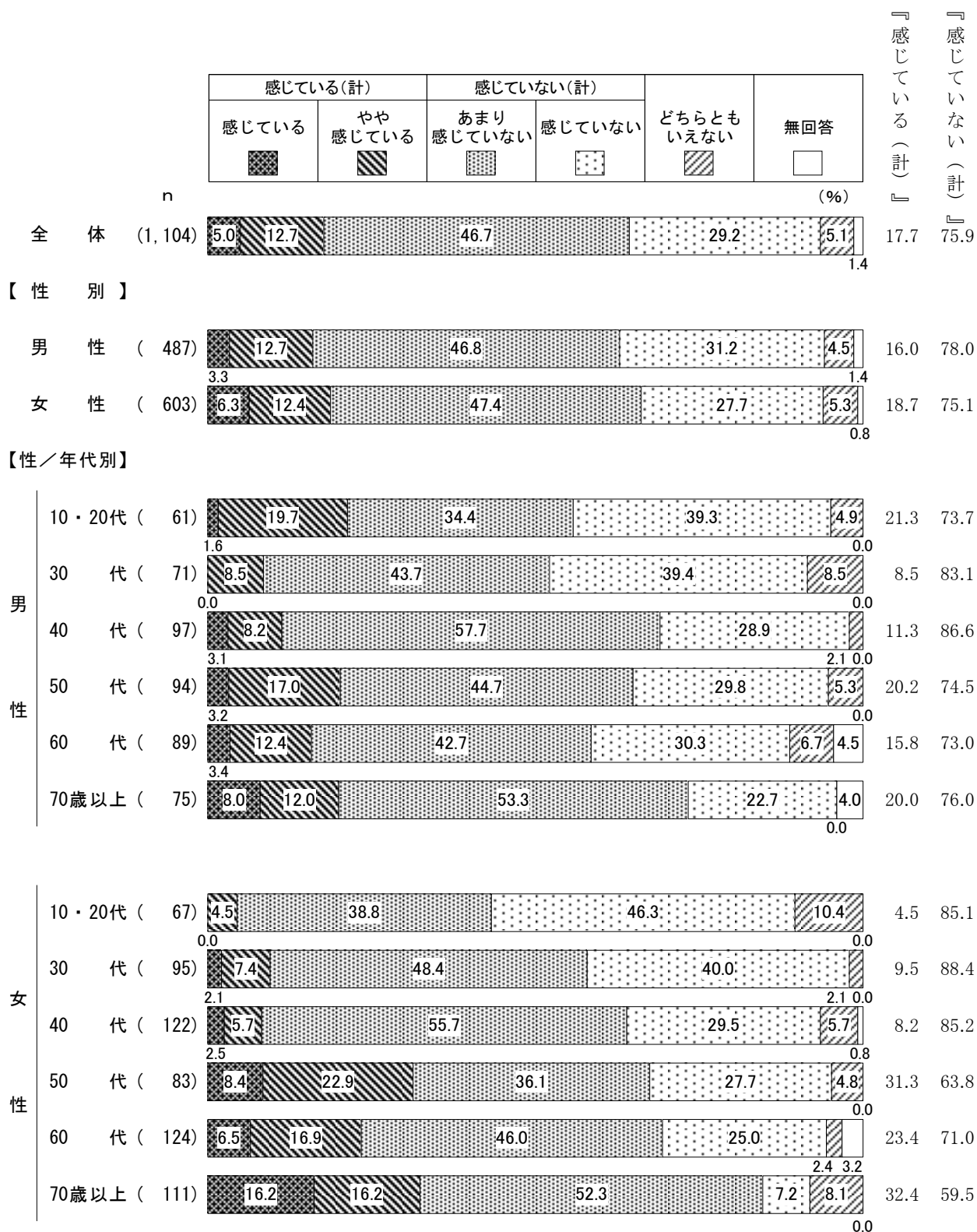
問9 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、大田区は積極的に事業に取り組んでいます。大会が身近になってきたと感じていますか。(○は1つだけ)

図5-1-1



2020年東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか聞いたところ、「感じている」(5.0%)と「やや感じている」(12.7%)を合わせた『感じている(計)』(17.7%)は2割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(46.7%)と「感じていない」(29.2%)を合わせた『感じていない(計)』(75.9%)は7割半ばと高くなっている。(図5-1-1)

図5-1-2 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているかー性／年代別



性別で見ると、『感じている(計)』は女性(18.7%)が男性(16.0%)より2.7ポイント高くなっている。

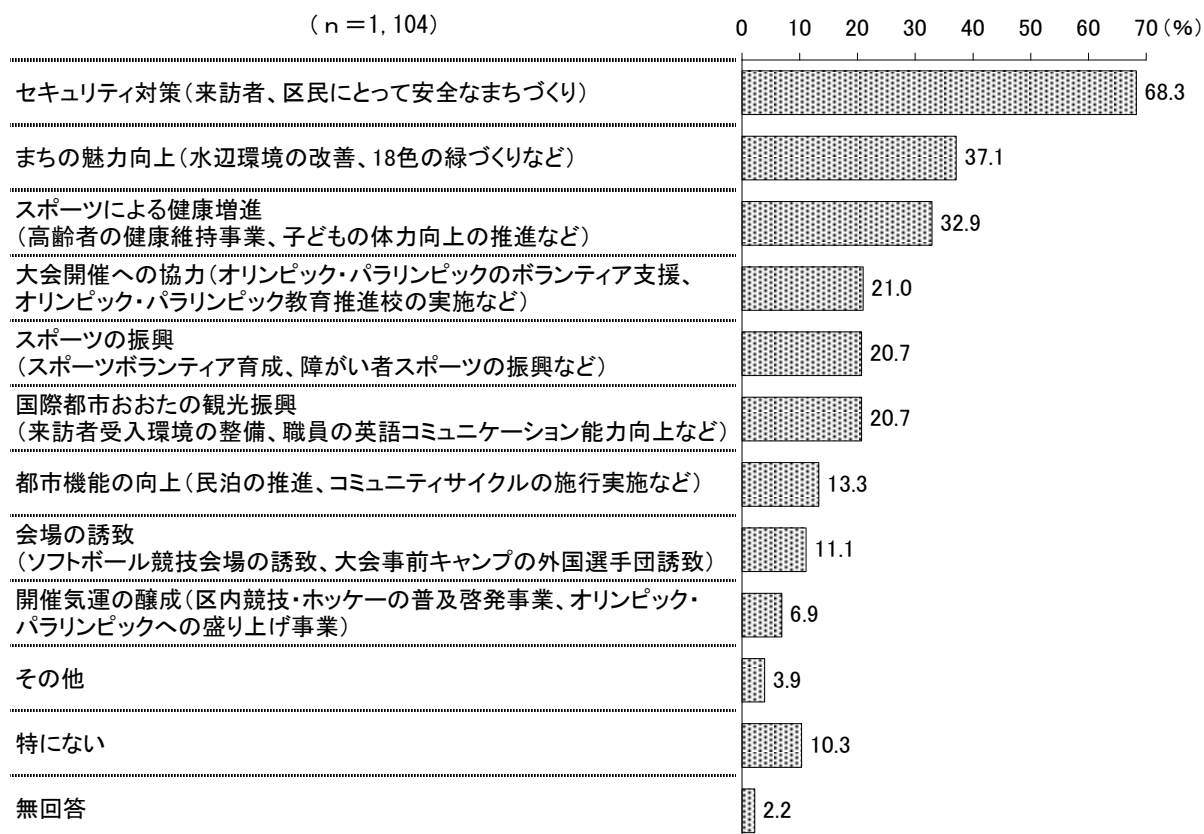
性／年代別で見ると、『感じている(計)』は女性50代(31.3%)と女性70歳以上(32.4%)で3割を超えて高くなっている。一方、『感じていない(計)』は男性40代(86.6%)と女性30代(88.4%)で9割近くと高くなっている。(図5-1-2)

(2) 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取り組み

◇「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」が7割近く

問10 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取り組みを教えてください。（〇はいくつでも）

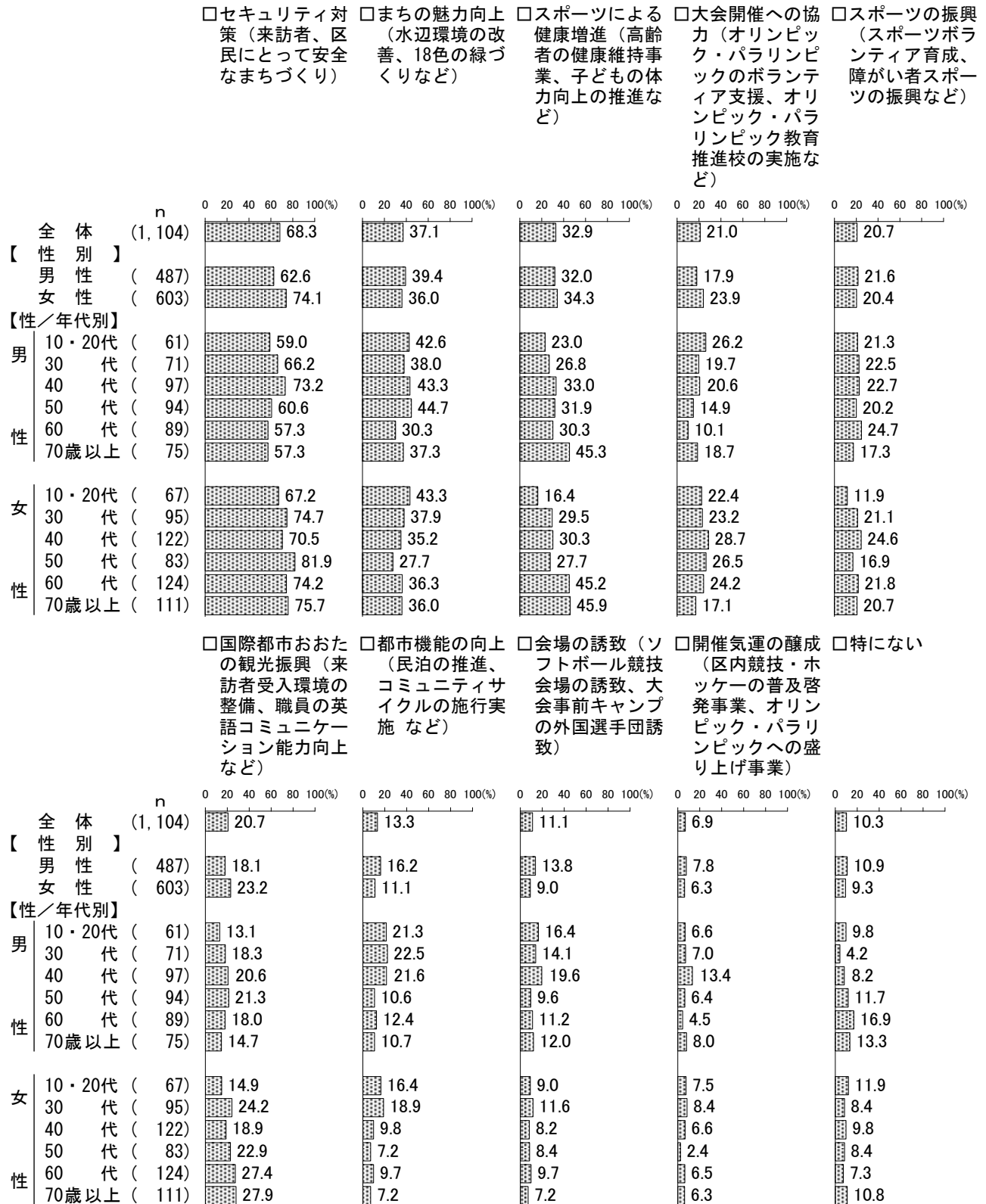
図5-2-1



2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取り組みを聞いたところ、「セキュリティ対策（来訪者、区民にとって安全なまちづくり）」（68.3%）が7割近くで最も高く、次いで「まちの魅力向上（水辺環境の改善、18色の緑づくりなど）」（37.1%）、「スポーツによる健康増進（高齢者の健康維持事業、子どもの体力向上の推進など）」（32.9%）、「大会開催への協力（オリンピック・パラリンピックのボランティア支援、オリンピック・パラリンピック教育推進校の実施など）」（21.0%）、「スポーツの振興（スポーツボランティア育成、障がい者スポーツの振興など）」（20.7%）、「国際都市おおたの観光振興（来訪者受入環境の整備、職員の英語コミュニケーション能力向上など）」（20.7%）などの順となっている。

「その他」への回答として、「新しい公共交通機関の整備」、「電柱の地下化などの景観の改善」、「ポイ捨てなどごみ問題への対策」などがあげられている。（図5-2-1）

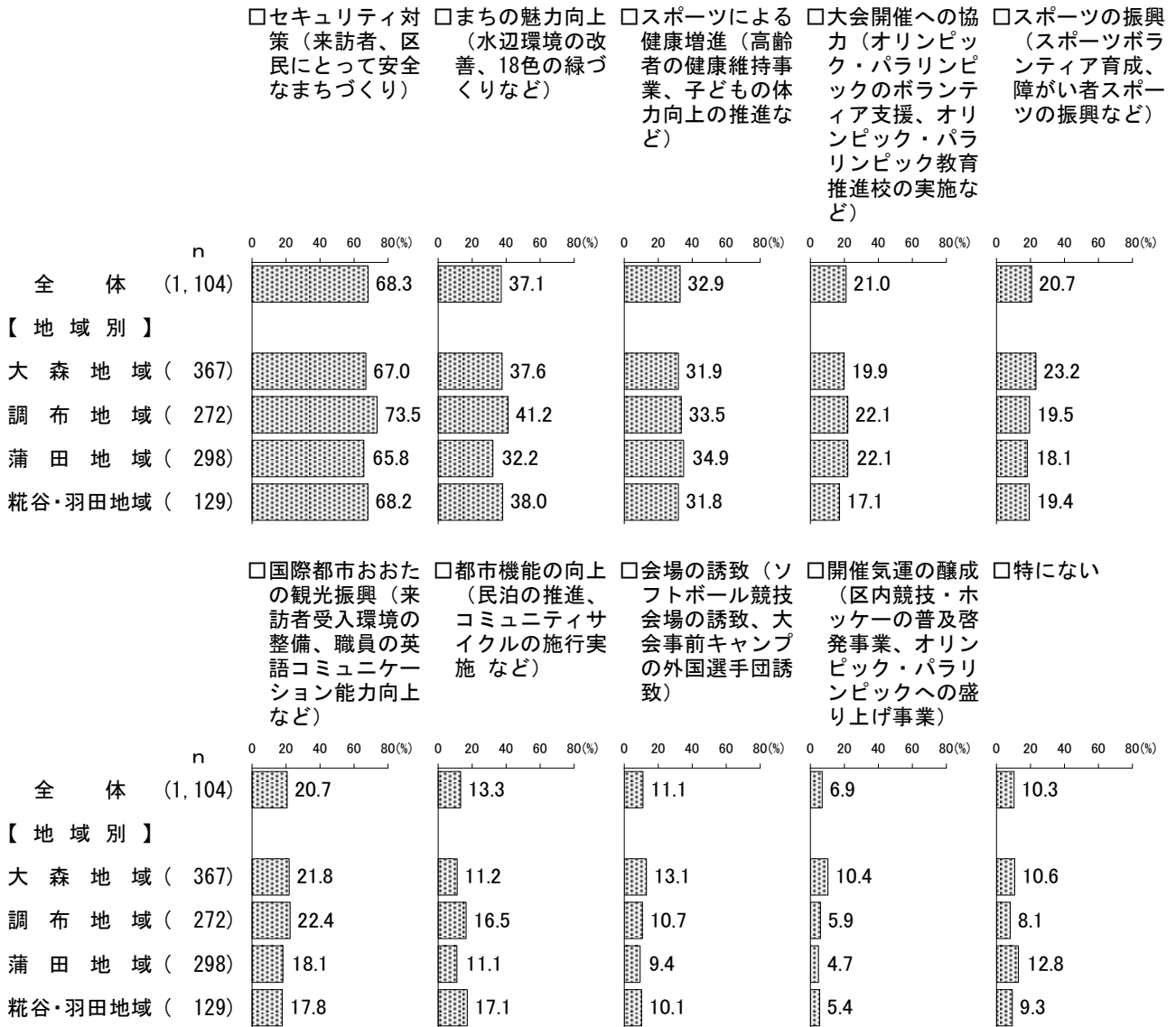
図5-2-2 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取り組み一性／年代別



性別で見ると、「セキュリティ対策」は女性（74.1%）が男性（62.6%）より11.5ポイント高くなっている。「大会開催への協力」は女性（23.9%）が男性（17.9%）より6.0ポイント高くなっている。「国際都市おおたの観光振興」は女性（23.2%）が男性（18.1%）より5.1ポイント高くなっている。「都市機能の向上」は男性（16.2%）が女性（11.1%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「セキュリティ対策」は女性50代（81.9%）で8割を超えて高くなっている。「スポーツによる健康増進」は男性70歳以上（45.3%）と女性60代（45.2%）、女性70歳以上（45.9%）で4割半ばと高くなっている。（図5-2-2）

図5-2-3 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取り組み—地域別



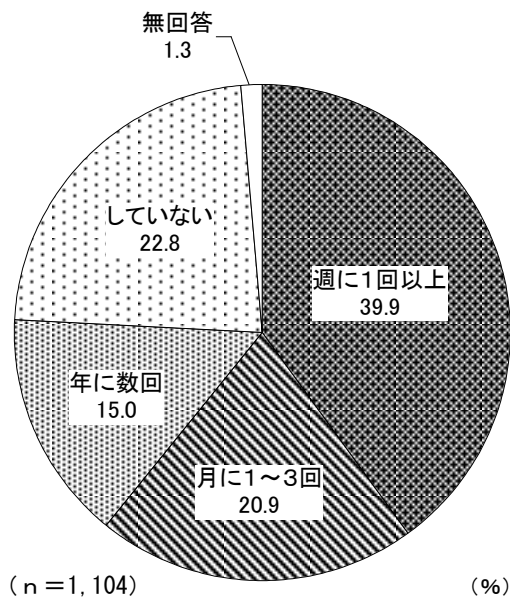
地域別でみると、「セキュリティ対策」は調布地域（73.5%）で7割を超えて高くなっている。「まちの魅力向上」は調布地域（41.2%）で4割を超えて高くなっている。（図5-2-3）

(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が4割

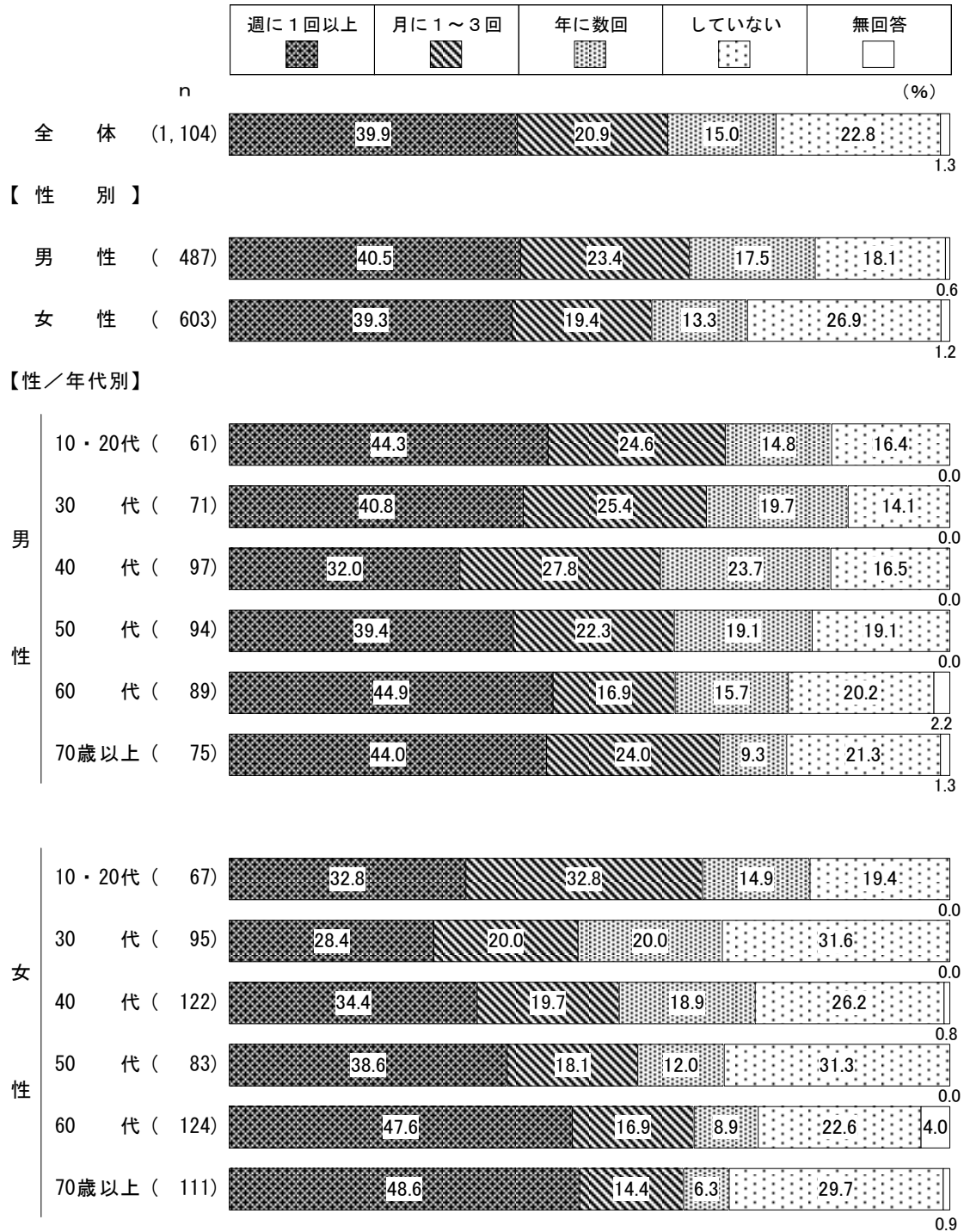
問11 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(○は1つだけ)

図5-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(39.9%)が4割で最も高く、「月に1~3回」(20.9%)は約2割、「年に数回」(15.0%)は1割半ばとなっている。一方、「していない」(22.8%)は2割を超えている。(図5-3-1)

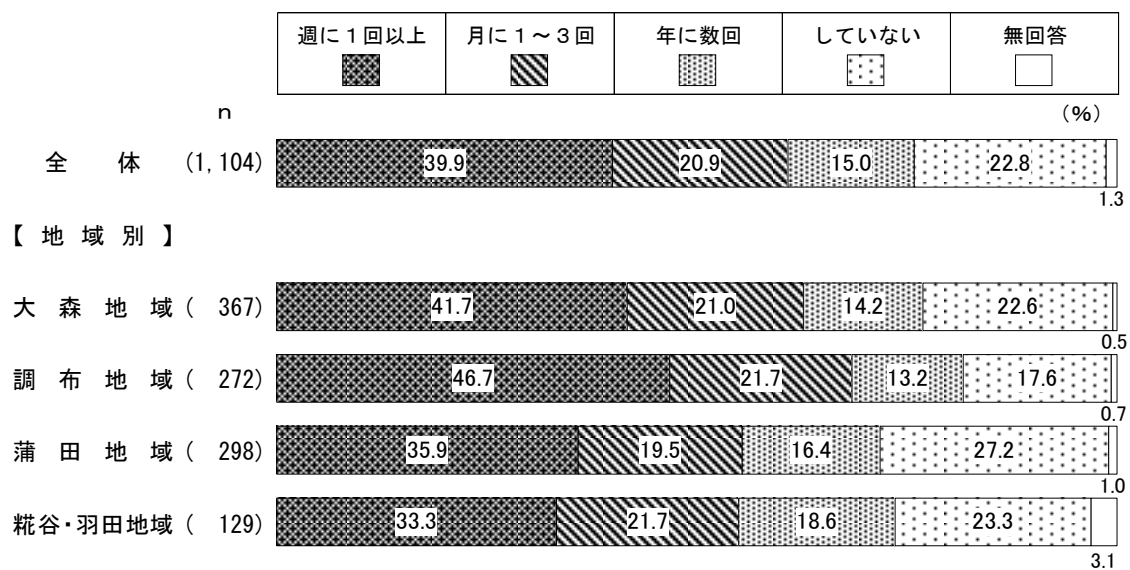
図5-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別



性別でみると、「していない」は女性（26.9%）が男性（18.1%）より8.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「週に1回以上」は女性60代（47.6%）と女性70歳以上（48.6%）で5割近くと高くなっている。一方、「していない」は女性30代（31.6%）と女性50代（31.3%）で3割を超えて高くなっている。（図5-3-2）

図5-3-3 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度—地域別



地域別でみると、「週に1回以上」は調布地域（46.7%）で5割近くと高くなっている。一方、「していない」は蒲田地域（27.2%）で3割近くと高くなっている。（図5-3-3）